

## 聞き取り調査結果(要旨)

## I 公民館長

## 1 館長のプロフィール

## ① 性別

|    | 計  | 都市部 | 住宅部 | 小集落 |
|----|----|-----|-----|-----|
| 男性 | 8名 | 3   | 3   | 2   |
| 女性 | 1名 | 0   | 0   | 1   |

聞き取りをした公民館長9名のうち8名が男性、1名が女性である。

## ② 年齢及び経験年数

|     | 平均年齢 | 平均経験年数 |
|-----|------|--------|
| 都市部 | 74歳  | 4年     |
| 住宅部 | 62歳  | 4年     |
| 小集落 | 63歳  | 2年     |

## (年齢)

回答者9名のうち60代が6名、50,70,80代は各1名であり平均年齢は66.4歳である。都市部の館長の平均年齢が最も高く、平均経験年数は小集落が最も短くなっている。小集落は、地域内の公務員が定年を迎えると慣例で館長に推薦されるなど、リタイア直後の公務員が順次館長に就任する傾向があった。

## (経験年数)

最短0.5年、最長12.5年であり、平均経験年数は3.61年である。また、聞き取り対象者の全員が、学校評議員、防犯・交通安全協会役員、人権同和教育推進員など、地域内での他の役職を兼務している。

## ③ 前職

| 職種        | 内訳          |
|-----------|-------------|
| 元市町職員     | 小集落3人、住宅部1人 |
| 現市町職員(兼務) | 住宅部1人       |
| 元公立学校長    | 住宅部1人       |
| 元民間企業     | 都市部3人       |

館長の前職については、元市町職員4人、現市町職員1人、元公立学校長1人、元民間企業3人である。

小集落では、全ての館長が現役時代から地域のお世話をしてきた市町職員が定年後にその延長として就任しており、逆に、都市部では全ての館長が民間出身者であり、PTA役員の経験者など一定の顔役が就任している。

このことから、館長には、小集落では地域活動の事務局(実働部隊)の役割が求められ、都市部では地域をまとめる顔役としての役割が求められていると窺える。

## 2 対象地域の概要

## 平均人口・平均世帯数

|     | 平均人口   | 平均世帯数  | (一世帯あたりの人数) |
|-----|--------|--------|-------------|
| 都市部 | 20,442 | 11,096 | (1.84)      |
| 住宅部 | 31,700 | 13,672 | (2.32)      |
| 小集落 | 6,222  | 2,687  | (2.32)      |

東中南予で市町の中心である都市部、都市の周辺にある住宅部、郊外の小集落を想定したため、都市部は一世帯あたりの人数が最も少なく、住宅部は公民館の所管地域の住民数が最も多くなっている。

なお、住宅部と小集落では、平均人口、平均世帯数ともに5倍以上の差のある地域となっている。

## 3 公民館の運営・管理体制

## ① 開館時間・休館日

| 開館時間       | 休館日           | 館数 |
|------------|---------------|----|
| 8:30~22:00 | 年末年始          | 5館 |
| 8:30~22:00 | 土日・祝日・年末年始    | 2館 |
| 9:00~22:00 | 年末年始          | 1館 |
| 8:30~22:00 | 第3日曜日・祝日・年末年始 | 1館 |

開館時間は、各市町公民館設置条例もしくは施行規則に基づきいずれの公民館も8:30又は9:00~22:00となっていた。

なお、土日が休館となっている公民館が2館あるが事前に行事が入っている場合には対応しているとのことであった。

## ② 職員構成

館長職は殆どが非常勤であり、1館を除き、概ね3、4名の職員で公民館を運営している。

一部の館長からは、「非常勤であるため、長期ビジョンを構想したり、新規事業を提案したりすることが難しい」「少ない人員で手いっぱいであり、忙しくしている主事等職員に、これ以上の負担を強いることはできない」などの発言があった。

|     | 館長の勤務形態 | 館長以外の職員体制                                 | 備考  |
|-----|---------|---|---|
| 都市部 | 非常勤     | 3人<br>(主事1、管理人1、臨時職員1)                    | なし  |
|     | 非常勤     | 2人<br>(主事1、主事補1)                          | 館長…非常勤だがほぼ毎日勤務。報酬は月4万円だが、交際費での出費の方が多い。<br>主事…市職員で常勤。時間外勤務も多い。<br>主事補…月～金の午前中勤務。 |
|     | 非常勤     | 2人<br>(主事1、主事補1)                          | 館長…月・水・金の午前中勤務の非常勤<br>主事…常勤<br>主事補…パート勤務  |
| 住宅部 | 常勤      | 9人<br>(課長補佐1、係長2、主事3、社<br>教指導員 嘱託1、臨時職員2) | 館長…生涯学習課長が兼務<br>左記9人…公民館主事は本庁事務と兼務  |
|     | 非常勤     | 2人<br>(主事1、主事補1)                          | 館長…非常勤(週3日午前中)<br>主事…常勤、市職員<br>主事補…委託、月～金の10時～17時。                              |
|     | 非常勤     | 3人<br>(主事2、嘱託職員1)                         | 館長…月・水・金の午前勤務   |
| 小集落 | 常勤      | 2人<br>(主査)                                | なし  |
|     | 非常勤     | 1人<br>(主事1)                               | 館長…非常勤だがほぼ毎日勤務。   |
|     | 非常勤     | 3人<br>(主事1、管理人1、臨時職員1)                    | なし  |

### ③ 直近の予算

各館における平成26年度の予算額は、500千円から1,898千円までで推移している。  
また、人口規模が小集落の8倍を超える住宅部の公民館にあっても、予算額では3分の1にも満たないことなどから、予算額が人口および世帯数に比例していないことが窺える。

|     | H26予算(千円) | 世帯数   | 人口     |
|-----|-----------|-------|--------|
| 都市部 | 1,582     | 5,241 | 8,522  |
|     | 1,678     | 3,681 | 7,758  |
|     | 697       | 2,174 | 4,162  |
| 住宅部 | ※ -       | 4,700 | 11,000 |
|     | 516       | 5,072 | 12,000 |
|     | 628       | 3,900 | 8,700  |
| 小集落 | 1,525     | 1,400 | 3,500  |
|     | 500       | 615   | 1,268  |
|     | 1,898     | 672   | 1,454  |

#### 【左記「予算」とは】

市町からの委託金及び別途収入（地域住民からの負担金、寄付金など）を含み、補助職員・管理人手当等の人件費を除いた公民館費（主に事業費）のことである。  
※ 地区館及び支館の予算が含まれており、中央館のみの予算を分解して把握することができなかったため、空欄としている。

### ④ 各館が取り組んだ新規事業

東予では住民ニーズの新規開設、小学校との連携、補助事業の実施、中予では、大学と連携した新規講座に取り組んでいた。南予地域では新たな取組みはなく、定例の行事を中心に公民館運営が行われていた。

- |    |  |
|----|--|
| 東予 | <ul style="list-style-type: none"> <li>夏休み子ども対象のパン作り教室</li> <li>小学校の全面協力で行う地域防災訓練</li> <li>今年度に限り、盆踊り大会を公民館が中心となって実施。これまでは、商店会が中心となっていたが、できなくなったため、1年限りのつなぎとして、公民館が音頭をとった。</li> <li>水源地ダムツアー 補助金を受けての事業</li> </ul> |
| 中予 | <ul style="list-style-type: none"> <li>愛媛大学（グローバルスタディコース）と連携した国際交流活動を5回講座で実施</li> </ul>  |
| 南予 | <ul style="list-style-type: none"> <li>老人クラブ内に太鼓グループを立ち上げることに協力</li> </ul>   |

### ⑤ 関係の深い社会教育関係団体、NPO、企業等

どの館においても、多くの団体と密接な関係にあることが窺える。  
特に、自治会との関係が密接であり、一体となって事業展開している場合が多く見受けられた。  
公民館が関係団体の事務局を担っている事例もあった。

都市部では一般的な自治会、婦人会、子ども会、PTAなどに加えて、銀行、ボランティア団体、商店街組織など多様な団体と連携しているとの回答があったのに対し、小集落では全ての館が、前出の一般的な組織と協力して総力をあげて対応しているとの回答であった。

|     |   |
|-----|---|
| 都市部 | 町内会、婦人会、子ども会、PTA、高齢者会、交通安全協会、体協、銀行、信用金庫、ボランティア団体、商店街組織、連合自治会、企業(広告協賛金)、民生委員、スポーツ少年団、愛護班など       |
| 住宅部 | 自治会、婦人会、PTA、壮年会、農協、敬老会、防犯協会、愛護班、文化協会、お祭り運営組織、ジュニア合唱団、学校、社会福祉協議会、民生児童委員、青年団、地区団体連絡協議会(事務局は公民館)など |
| 小集落 | 自治会、学校、婦人会(女性グループ)、青年団(会)、老人クラブ、商工会、PTAなど、あらゆる団体が地域全体で協力。地域活性化委員会                               |

⑥ 上記団体の直近10年間の変化(活力・発言力等)

多くの館において、少子高齢化が地域課題となっており、他団体との連携で地域を支えていることが窺える。小集落では、全ての地域でメンバー数の減少や高齢化、組織の消滅が回答されたのに対し、都市部では連合自治会が運営に参加するようになったなどの回答があった以外、10年前と変化はないとの回答であった。

|     |   |
|-----|---|
| 都市部 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・連合自治会が4年前から加わり、自治会の意見が公民館の運営に生かされるようになった。</li> <li>・30年前と比べるとずいぶん変わったが、10年前とはあまり変わっていないと感じている。</li> <li>・特になし。</li> </ul> |
| 住宅部 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの団体も人数が減少気味である。</li> <li>・婦人会・文化協会は高齢化が進行している。</li> <li>・特になし。</li> </ul>  |
| 小集落 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人数減少、高齢化</li> <li>・少年団組織がなくなり、高齢者利用が増えた。</li> <li>・住民の減少で、様々な団体の協力がなくなってきた。</li> </ul>                                    |

⑦ 公民館活動とある種競合する組織・団体の存在

9館のうち3人の館長が、公民館活動とある種競合する組織・団体の存在として、地域の自治会を含む団体を挙げており、館長と町内会長で相談しながらバランスを保ったり、協働できる事業を始めたりして、連携が深められている。

|     |  |
|-----|--|
| 都市部 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり協議会があり、協議会長は町内会長が務めている。</li> <li>館長と町内会長で相談しながらバランスを保っている。</li> <li>・地区には競合する団体はない。公民館が中心の地域であると自負している。</li> <li>・特になし。</li> </ul>  |
| 住宅部 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央公民館はインターからも近く、部屋も多いため、市外の団体の利用もある。</li> <li>そのため、市外の団体と施設使用等についてトラブルになることがある。</li> <li>・地域の課題を自分たちで発見し、解決していくための方策を協議するコミュニティ活性化協議会がある。花いっぱい運動など、協働できることからやり始めている。</li> <li>・ない。社会教育関係団体以外の団体も取り込みながら、一体となった活動が展開されている。</li> </ul> |
| 小集落 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとつになって動いている。</li> <li>・地域活性化委員会があるが、影響などは特になし。</li> <li>・特になし。</li> </ul>   |

↓ ↓ ↓

3 公民館の運営・管理体制の実態から  
都市部と小集落の課題解決策を同じ視点で検討することは、適当だろうか。

4 公民館運営審議会について

① 委員の選出方法、人数、会議開催回数

委員の選出方法については、一部公募委員もみられるものの関係団体の長等の充て職が多くなっている。

|     | 選 出 方 法  | 人数  | 会議開催回数 |
|-----|--|-----|--------|
| 都市部 | 公民館活動に協力関係にある団体の長に委員を依頼している。団体の長の任期が委員の任期となっている。                           | 10人 | 4～5回   |
|     | 公民館活動がよりよく機能するためのメンバーが就任している。充て職以外の方は、体育協会の前会長や前婦人会長。館長の指名及び承認は、公運審が行っている。 | 13人 | 3回     |
|     | 各団体の充て職が多い。各団体の役員交代に合わせて運審の役員さんも代わっていく。                                    | 10人 | 5回     |
| 住宅部 | 市社会教育委員との兼務。ほとんどが充て職であるが、4名一般公募の方がいる。任期は2年。                                | 15人 | 2回     |
|     | 地域活動を活発に行っている方々、関係団体の長など。公募委員4名。   | 13人 | 3回     |
|     | 公運審の委員は、公民館の応援団的存在だと認識している。選出方法は、前任者の推薦または現委員での情報収集により依頼する。                | 10人 | 2～3回   |
| 小集落 | 職名により選出。任期は2年。   | 13人 | 2回     |
|     | 公民館長による指名。   | 13人 | 2回     |
|     | 公民館活動に積極的にかかわってくださっている団体の長を中心に選出している。館長と主事で候補を選出し、長と総会で決定。                 | 6人  | 3回     |

② 議題、協議の内容等

いずれの市町でも、前年度の事業報告及び決算、次年度の予算及び事業計画を公民館運営審議会にて協議しているが、それ以外の目新しい議題や協議内容はなかった。

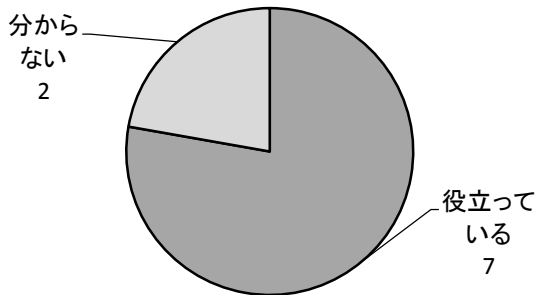
なお、聞取りでは次の意見があった。

- ・事業の反省を行い、改善点がないか必ず協議するようにしている。(9)
- ・前年度の踏襲がほとんどになっている。(1)
- ・新しく役員になった人から質問や意見がよく出される。(1)
- ・一般公募の方から活発に意見や質問をしてもらえる。(1)

### ③ 会議は、館長として公民館を運営するのに役立っているか

館長1年目の2名以外の7名からは、事業改善の視点などから「公民館運営審議会は、館長として公民館を運営するのに役立っている」との回答があった。

別途聞き取りを行った自治会長・学校長・若者からは、「地域との密接なつながりをつくるために役立っている」などの肯定的意見がある一方、「委員の年齢が高い」「公民館の人が、もっともっと積極的に地域の人に協力依頼等、声掛けをして欲しい」など課題も指摘されている。



#### (役立っている)

- ・ 協力団体間での周知や事業改善点の協議に役立つ。
- ・ 協力団体の皆さんの力添えがなくては進まない。
- ・ 大変活発に意見を出していただいている。
- ・ 公民館活動に関わっている団体の方々の意見が、参考になることが多い。
- ・ 主事、地区主事、市職員が進める内容に外からの視線で見つめ直すことができる。公運審の委員さんは、都合のつく限り出てきて事業運営も手伝ってくださっている。役割は主事と相談しながらであるが、委員さんの協力がなければ運営に支障が出るほど、重要な役割を果たしている。

#### (分からない)

- ・ (館長就任1年目であるため) 必要性や成果などは、まだ分からない。(2)

#### (その他)

- ・ 公民館事業として公運審で新規イベントを考えたい。
- ・ 国体に向けた新しいアイデアやイベントについても協議していかななくてはならない。

### ④ 会議への要望、期待

9館のうち4館の館長が、公民館運営審議会への要望、期待は、特になしと回答している。

別途聞き取りを行った自治会長・学校長・若者からは、「公共施設利用の自由度をあげて欲しい」「役をしてその大変さがわかるので、多くの方に役員をしてほしい」「地域のお年寄りを地域資源として取り込んだ活動」「公民館を拠点とした各種団体の交流が深まる事業」などの要望、期待が寄せられている。

- ・ 前年の踏襲が中心なので、新しく取組んだらよい事業(学級や講座)について話し合いができるとうい。
- ・ 団体によっては代表者が1年で変わり、公民館活動を知らない方もいる。せめて2年間くらいは、代表をしてほしい。
- ・ 地域住民が地域に愛着を持つための方策について話し合いたい。
- ・ 体育協会の発言が少ないので、発言力を高めてほしい。特に、運動会の企画や運営における影響力をもってほしい。

#### (その他)

- ・ 特になし。(とても協力的で問題なし。よく顔を合わせて話し合いをしている。)(4)
- ・ あまり意見が出ない。

### ⑤ 喫緊の地域課題

- ・ 高齢化、若者の取り込み。
- ・ 地域コミュニティ連絡協議会の立ち上げ。公民館の運営に携わっている団体に、地区の社会福祉協議会、民生委員等を加えた組織を立ち上げ、地域課題の把握や解決に向けた協議を開始する予定である。
- ・ 館長に就任してまもなくの時期に、子どものいじめの現場を目の当たりにしてショックを受けた。地域に愛着を持ち、地域の人に愛着を感じられるようになってほしい。
- ・ 高齢化。団体によっては、事務局を市に持って欲しいという団体もあるが、断っている。
- ・ 公民館の老朽化。文化会館の跡地利用。えひめ国体への対応。地域コミュニティ協議会の組織作り、立ち上げ。
- ・ 若者の参加が課題。壮年会、婦人会、老人クラブ、愛護班などの組織への帰属意識も低下しているように感じる。地域課題や要望が見えていないことが課題。アンケート等を実施して、今地域が抱えている課題や要望を把握することを検討したい。
- ・ ボランティア(環境整備)を増やしたい。
- ・ 地域全体の高齢化が進んでいる。今後どうしていくのかを考えなければならない。
- ・ 定住促進、空家の活用。

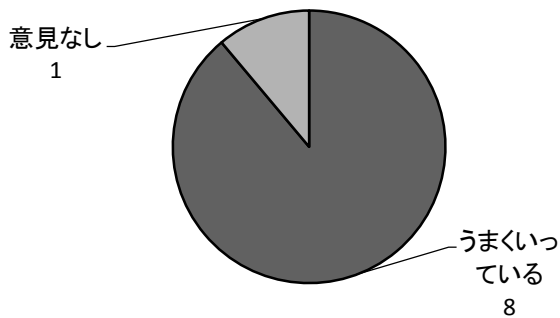
## 5 公民館と地域とのかかわり方

### ① 公民館活動と地域住民とのかかわり

9館中8館が、うまくいっているとの主旨の回答であり、中でも事業参加者数に係る回答、他団体(自治会、福祉協議会)との協働を目指す回答が多かった。

(参考)

地域住民の組織である自治会長側への聞き取りでも、全員が公民館とのかかわりは良好である旨の回答であった。



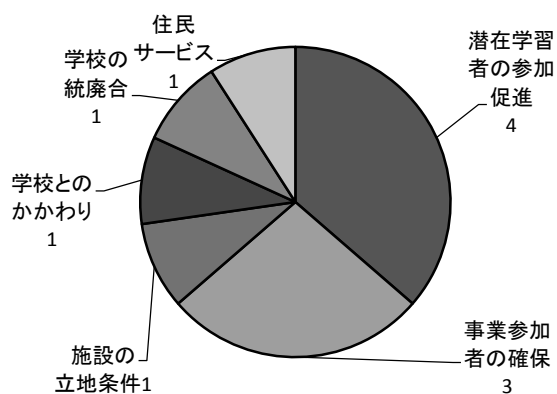
- ・ うまくいっている。地域住民がよくしてくれている。
- ・ 関係団体に属する住民、公民館を利用してくれる住民との関係はよい。
- ・ うまくいっている。公民館祭りには150人のお手伝い、600人以上の参加者がある。綱引き大会には、16チームが参加する。
- ・ PTAや子ども会と大学、公民館が連携した事業がある。
- ・ 市街地中心部にあり、駐車スペースには限りがあるが、駐車場の問題が出たことはない。
- ・ 高齢者の太鼓グループは、定期的な練習を公民館で行い、太鼓保管のための倉庫も公民館内に用意している。元気なグループである。納涼祭りや市民運動会には大勢の住民が参加して、共に活動できている。
- ・ 地区団体連絡協議会に自治会の代表者も加わっており、事務局を公民館が担当しているため、事業参加者も多い。
- ・ 社会福祉協議会ともう少し深いかかわりがもてたらいい。障害者とともにボランティア出来たら良いという話が持ち上がっている。気軽に立ち寄れる公民館を目指している。
- ・ 意見なし。

### ② 困っていること、苦労していること

ほぼ全ての館で「人(参加者)集めに苦労している」との回答であった。

なお、学校の統合により、1つの校区に複数の公民館が存在することとなったため、学校と公民館行事の調整(主に学校側)に苦慮するようになったとの回答もあった。

回答で最も多かったのが、「潜在学習者の参加促進(4人)」であり、特に、若年層(独身世代、若い世代、子育て世代)の公民館活動への参加が少ないことが窺える。次いで「事業参加者の確保(3人)」が課題として挙げられている。多くの項目について、地域の少子高齢化が背景となった課題であることが窺える。



- ・ 事業参加者の確保。
- ・ イベント時の人集め。独身世代、若い世代、子育て世代の参加が少ない。連合自治会を通じて各自治会に参加呼びかけをすると、年配の方がより多く集まってくれるようになった。公民館として若者向けの講座も開催している。昨年度はフラワーアレンジメント、フラダンスの2講座。今まで公民館を利用しなかった若い人にも参加していただいて、好評だった。
- ・ 公民館を利用しない人が少なからずいる。若者層の活用がない。商店街で夜中に歌を歌ったりダンスを踊ったりしている若者に練習場所を提供できないか考えることもある。3校の統合により小学校が一つになったが、公民館は3館のままである。小学校区と公民館とにずれが生じた今活性化や学校とのつながり、兼ね合いを見い出す話を進めていかなければならない。

- ・ 社会体育・社会教育関係者の利用が多い。学校とのかかわり、子どもとのかかわりが直接ない。
- ・ 大きな地区なので、人は集まってくる。公民館に関係ない人は、全く来ない。
- ・ 施設の地理的条件がよくない。学校と近くなく、通学路上でもないことや、中央公民館と同じ建物内にあること等が他の公民館と違い、住民に身近な公民館となりえていないかもしれない。
- ・ 青年団のような組織がない。消防団等と役が重なり、若年層の住民には出たくても出られない行事がある。
- ・ 土日に観光客が増え、団体がトイレの借用や弁当を食べさせてほしいという問い合わせがある。対応できるときはいいが、できないときに困る。
- ・ 人集め。運動会では子どもが減少し、敬老会では、400人のうち100人しか参加しない。

### ③ 館長として、地域の住民に望むこと、期待すること

- ・ 地域住民が仲良くやっていたらいい。
- ・ イベントへの参加からでいいので、公民館に足を運んでほしい。
- ・ 地域への愛着心。
- ・ 施設・部屋の取り合いをしないようにしてほしい。
- ・ 特になし。予算が少なく、住民に還元できないので申し訳ないと思っている。
- ・ 住民が公民館をうまく使ってやろう、活用してやろう、足を運んでやろうという意識をもっと持ってもらえればよい。
- ・ 地域の交流の場としたいため、行事に参加してほしい。(特に、市職員のOB)
- ・ 支館長が頑張っているから、今のところはない。
- ・ 地域のために元気で長生きして、古き良き伝統を伝えてほしい。

### ④ 館長として、公民館主事に望むこと、期待する役割

「非常によくやってくれている」「大変よくやってくれており、これ以上何かを求めるのは無理」などの回答が5人と半数を超えている。一方で残りの4人については「地域に足を運び、地域を知るために住民の声を十分に聞いてほしい」など、住民ニーズの把握に努めることを期待する回答となっている。

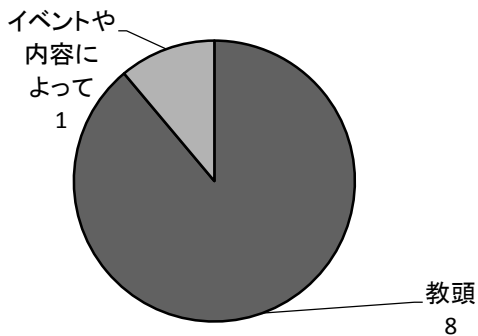
- ・ 非常によくやってくれている。なし。(3)
- ・ 大変よくやってくれており、これ以上何かを求めるのは無理だと思っている。  
土日のイベントや連日遅くまで業務に携わってもらっている。
- ・ よく気付き、住民への人あたりもよい。古紙回収用プレハブの運営も住民から好評を得ている。  
杓子定規な仕事だけでなく、大胆に面白く仕事してほしい。
- ・ 地域に足を運び、地域を知るために住民の声を十分に聞いてほしい。
- ・ 地域住民を知る。参加者との対話をする。
- ・ 社会教育課は、イベントだけではなく、ソフトの方も考える時期である。
- ・ 主事は、公民館のある地域在住ではないので、地域のことをしっかりと知ってほしい。  
館長と一緒に動いて、地域を知ってもらうようにしている。

## 6 公民館と地域の学校の繋がり・かかわり

### ① 学校側の窓口、つながりの実態

公民館活動に係る学校側の窓口については、教頭(8人)、イベントや内容によって教員があたる(1人)となっており、その実態について1人以外の公民館長8人が、よくつながっていると回答している。

別途聞き取りを行った自治会長・学校長・若者からも、概ね緊密な関係であるとの回答であった。



#### (つながりの実態)

- ・ 学校を会場としたり、備品を借りたりしている。先生も公民館行事に参加・参観いただいている。文化祭では、絵画作品の提供をいただいている。
- ・ 公民館のすぐ隣に小学校があり、大きなイベントは小学校で行っている。館長と校長も気軽に話ができる関係で、地区ごとに開催する防災訓練について、小学校も巻き込んでやることも、二人の話で決まった。学校からの伝承遊び体験の依頼に対して、老人クラブに斡旋・要請を行っている。公民館主事がスポーツ少年団の事務局も担っている。
- ・ 非常によく繋がっている。学校と公民館が同一敷地内にあり、放課後子ども教室を公民館内で行ったり、子どもたちの様子を通信にして週1回程度持ってきてくださったりするため、学校の様子がよく分かる。公民館が学校の敷地内にあるため、学校の安全管理上の理由から門扉を閉めている。公民館利用者には、来館ごとに自分で門扉を開けていただくかなくてはならず、不便をかけているし、事故等の心配もある。
- ・ 校長、教頭を中心によく連携がとれている。校長は、公運審の委員に復活した。地域内の幼稚園・中学校とも連携がとれている。どの学校・園も公民館行事に理解を示してくれ、行事案内もしてくれている。
- ・ 公運審と地区団体連絡協議会に学校の先生方も加わっている。他館の事業も含めて、先生方も一緒に参加して下さっている。桜まつりには、5年生児童がブースをひとつ受け持ち、祭りを盛り上げてくれている。校区別人権総和教育懇談会では、先生方と一緒に学習できている。
- ・ 教頭先生が中心ではあるが、各行事担当ともつながり、事業を行っている。
- ・ 地元出身の校長なので、とてもやりやすい。
- ・ 窓口はイベントや内容によって違う。そこそこは、つながりがある。運動会、ふるさと大会、まつりなどの伝統的なもの等。

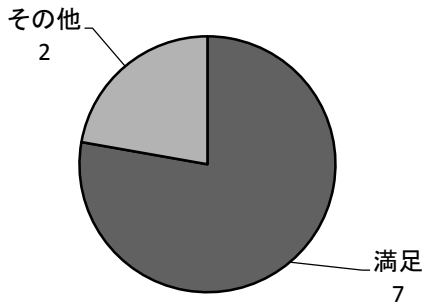
#### (その他)

- ・ 直接的なつながりは、あまりない。

## ② 学校とのつながりの満足度

公民館長は、7人が「満足している。十分に満足。満点」など、肯定的意見をもっている。一方で、「先生たちがいなくても地域の人々がやってくれるので大丈夫」「こちらから、かかわる方法を模索中」という現在の状況に満足していない旨の回答も2人ある。

別途、聞き取りを行った学校長からは、公民館と連携して事業を実施する場合のデメリットとして「地域行事に教員が参加した場合、どうしても学校行事で消化しきれないことが多く、ボランティア参加となり、代休を与えることができない」「行事のたびに依頼に来られる。年度初め等に話し合い、打合せが必要」「主体が、学校なのか公民館なのかははっきりしないところがある」などの回答があった。



(満足している)

- ・ 満足している。十分に満足。満点など。(7)

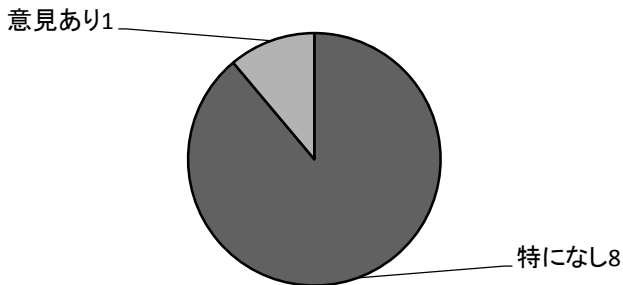
(その他)

- ・ 先生たちがいなくても地域の人々がやってくれるので大丈夫。
- ・ こちらから、かかわる方法を模索中。

## ③ 学校に今以上に望むこと、期待すること

全ての公民館長は、現状に満足している回答であった。

別途、聞き取りを行った学校長からも、概ね「学校もさらに地域とつながっていききたい」という回答が得られている。ただし、一部には「少子化に伴い、子どもや教職員一人あたりの活動の比重が大きくなってきているため、精選したり統合できる行事は統合したりしていきたい」「学校からのお願いは、聞いてくれるのが当たり前と考えている教職員がいるのが現状であるため、学校からの一方通行にならないよう心掛けたい」といった回答もみられた。



- ・ 特になし。満足している。など(8)
- ・ 運動会で1日子どもたちの様子を見せてもらって感じたのが、一人一人の能力の有無にかかわらず、非常によく子どもたちを育てている、教育が行き届いていることであった。逆に、公民館が子どもたちとかかわる際に絶対に手を抜けないと感じさせられた。

## 7 公民館利用者

館長の印象として、性別は「女性」、年齢層は「高く」、地域での「居住年数が長く」、社会教育関係団体関係者をはじめ、「趣味・教養に関する講座受講者」の利用者が多いと感じている。一方、若年層で男性が非利用者の傾向がみられると感じている。

別途行った調査票調査からは、性別については明らかになっていないが、「賃貸の集合住宅の住民」、「20歳代及び50歳代の住民」の公民館利用率が低いことが明らかとなっている。

### ① どのような方が利用者で どのような方が非利用者か

#### ○ 利用者

- ・ 昔から地域にいて、つながりの深い方。子ども会関係の人。
- ・ 年間を通じて公民館を使用している趣味講座の自主グループが37団体ある。これらの団体は、年間の申請により使用が認められ、無料で公民館を利用できるようになっている。新規の団体については、既存団体の使用しない部屋を月ごとに申請し、2～3年間様子を見て、継続して学習活動ができるようになれば、年間申請団体になれる。
- ・ 社会体育では、ダンス、空手、エアロビクス、ヨガ、体操
- ・ 文化活動では、太鼓、舞踊、生け花、詩吟、習字、音楽、絵画、俳句、手話サークルや英会話 など
- ・ 文化協会の方の教室利用(大人・特に高齢者)が多い。夏休みは子どもも利用する。
- ・ 年配の方が多い。
- ・ 婦人会、壮年会、老人会などの役員さんがよく訪れる。
- ・ 子どもから高齢者まで幅広く利用している。
- ・ バス待ちをしている高齢者、本を借りに来る小中学生(バス待ちの間)、親との待ち合わせの子ども
- ・ 高齢者と女性の利用が多い。

#### ● 非利用者

- ・ 若い方の利用が少ない。
- ・ 中間層の男性(仕事をしている方)の利用が少ない。
- ・ 20～30代の若い世代の人は少ない。  
小学生(学校近辺になく、通学路から外れている。)も少ない。  
地域住民も少ない。(そもそも公民館に来る用事がない。独自の建物がなく、貸館業務もないため)  
区長もあまり来ない。(提出物、総会の資料印刷以外ではほとんど来ない。)

- ・山の中に住んでいる人は来にくい。

## ② 公民館行事、地域行事への参加者・非参加者の現状(偏り等)

### ○ 参加者

- ・昔から地域にいて継続的に公民館活動に参加している人。
- ・団体の関係者、自治会からの呼び掛けに応じた方々はよく参加してくれる。
- ・愛護会、婦人会、敬老会の会員やそれに近い年齢の方々が中心である。
- ・公民館まつり、盆踊りなど地域全体の行事になると、幅広い年代の方が参加する。(3)

### ● 非参加者

- ・新しく移り住んできたマンションなどの方や学生。
- ・若い世代、現役で仕事をしている世代が相対的に少ない。
- ・行事の内容によって参加者は違う。興味を持った講座等に参加する傾向にある。

## ③ 非利用者の特徴や共通点

- ・若い方。(5)
- ・働いている人。自分の仕事で手いっぱいの方々。(2)
- ・階段がづらいという人。
- ・山の中の住民。
- ・公民館活動や講座に興味のない人は来館しない。年齢は関係ない。

## ④ なぜ利用しないのか理由(予想)

都市部の1館が「住民に時間の余裕がないから」、小集落の1館が「バスの便が悪いから」と具体的に回答しているが、それ以外の館は「わからない」「アンケート調査をしてみたい」などの回答であり、ほぼ全ての館で利用しない理由が十分に把握できていないことが分かる。

- ・よくわからない。
- ・時間の余裕がない。「子どものスポ少の世話すら、したくてもできない」という声を聞く。
- ・公民館利用の手続きが面倒(役所の延長)であるという意識があるのかも。
- ・公民館を利用しなくとも、地区の集会所で用事が済む人も多い。
- ・アンケート等を実施して課題を把握したい。
- ・特に聞いていない。バスの便が悪くて利用しにくいところがあるのではないかな。
- ・距離的に利用しづらい。
- ・公民館活動や講座に興味がない。

## ⑤ 利用しない人に対して、何らかの働きかけや取組みを行ったこと

都市部の1館から「フラワーアレンジメントやダンス」、住宅部の1館から「浴衣着付け教室」「パンづくり教室」と回答があった。それ以外には「広報に努めている」、住民からの要望を「把握していない」「伝わってこない」との回答であった。

- ・特になし。(3)
- ・民生委員さんを通じての広報依頼、回覧板、放送。(2)
- ・公民館報は全戸配布しているが、利用しない層は見えていないかもしれない。
- ・若い方が参加できるように、婚活の料理教室を行ったが来なかった。
- ・体験教室の実施。25年度は、フラワーアレンジメントとフランドダンス。若い人も来てくださった。ただ、平日の昼間に開催しているため、参加できる層には限りがある。
- ・普段あまり公民館を利用しない若い世代(中学生)をターゲットに、やさしい浴衣着付け教室を行い好評だった。

## ⑥ 住民からの公民館行事や地域行事に対する希望や要望

- ・特になし。(2)
- ・貸館、施設・管理についての希望や要望が多い。(2)
- ・毎年実施してきた行事で、予算不足等の関係で変更したことについては、賛否の反応が少人数ではあるが出てくる。住民の希望や要望が公民館まで伝わってこないのが現状である。
- ・婦人会が何かしてくれた方がいいなという声がある。
- ・環境問題については議題として上がってこなくなった。防災や災害対策が多い。しかしごみの収集所については、位置的に遠い方もいるので、検討すべき課題である。
- ・趣味講座の自主グループは、公民館祭りで成果発表を行っている。バザーやウォーキング大会も開催し、大勢の人が集まっている。バザーはボランティアグループが運営し、バザー券の収益で材料代がペイできているため、住民も満足していると思う。
- ・把握していない。

## ⑦ 利用に関しての問題点と課題

- ・なし。(4)
- ・人間関係が気薄になっているので、団体同士・団体内で問題が起こる。
- ・市外の利用者のマナー(使用後の清掃等)
- ・交通が不便との声がある。
- ・使用料無料だが、公民館利用に関する問題は少ない。  
新しい団体が、年間の使用枠をとれるかどうかについても、今のところ目立ったトラブルはない。  
住宅が隣接しているが、音に関する苦情もない。
- ・公の施設なので、みんなが気持ちよく使用できるよう、ある程度のルールは必要であるが、以前から使っていて、決まって使用する人が私物化してしまう傾向があり、ルールがなし崩しになりがちであった。以前から使用している方たちからは「厳しくなった」との声もあるが、施設管理者として最低限のルールを守るようお願いしている。



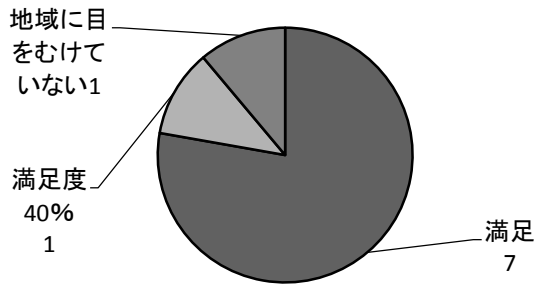
- ・ 公民館を利用するサークルの方々は、公民館まつり前になると館内の清掃作業をしてくださる。

### ⑧ 市町村合併前と後での利用者や活動内容等の変化

- ・ ない。旧町単位で公民館があるため影響はない。中心部の公民館なので、合併の直接の変化は感じない。など(5)
- ・ 財政面で待遇が悪くなったと感じている。予算一律20%カットということもあり、口には出さないがよくないと感じることがあるのではないかと思っている。
- ・ 地域や団体への帰属意識の低下を感じるが、合併と関係ないかもしれない。
- ・ 人口流出。若い人が減っている。(職員も)人的な配置をお願いしたい。役所と公民館を別にして欲しい。
- ・ 行事自体は変わっていない。主事が出ていく機会が多くなった。逆に、事業などがあるときには、他の館の主事が協力してくれる。

## 8 市町との繋がりや関わり

### ① 市町教委との関係の満足度



#### (満足…7館)

- ・ 満足している。(7館)
- ・ 人間関係を積み上げてきており市職員との関係は良好。
- ・ 一体化できており良好。
- ・ 公民館行事で人手がいる時にすぐに手伝う関係が自然にできている。意思疎通が早い。
- ・ 館長会・主事会等で盛んに情報交換ができています。

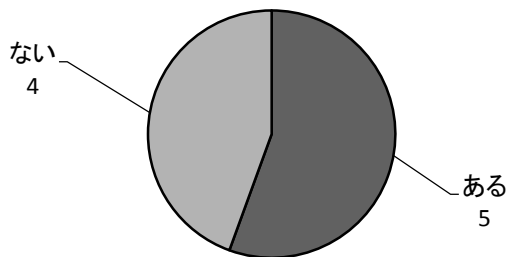
#### (不満足…1館)

- ・ 教育委員会に限らず行政が地域に目を向けていないと感じている。

#### (その他…1館)

- ・ 満足度は40%。施設の補修は要望を聞いてくれるが、勤務や人事については聞いてもらえない。

### ② 首長部局(教育委員会以外の課)との協働行事・事業



#### (協働行事・事業)

- ・ 福祉部との協働によるサロン。タウンミーティング。
- ・ 市政10周年記念事業を行う予定。
- ・ イベントによっては行う。担当者同士の意思疎通が大切である。
- ・ 地域全体の防災訓練。
- ・ 健康パトロール(福祉課と協力)。地域の方々にとってはとてもよい。健康管理に役立っている。

#### (その他)

- ・ 一緒に企画・実施しているものはない。
- ・ 関係は非常に希薄であり、一緒に行う行事はない。校区内にある道の駅でのイベントに公民館が協力することは、ない。観光協会が主体だからだろうか。商店街の人たちは古くから公民館とつながりがあり、公民館を活用しようとする気持ちがある。今年度から夏休みのラジオ体操を商店街の中でやり始めたのも協力体制があったから。
- ・ 協働事業はないが、逆に市で行われる大きな行事には、主事が集められる。
- ・ 関わり合いがない。人権・同和教育懇談会や同和問題学習会の講師派遣で連絡を取ることはある。

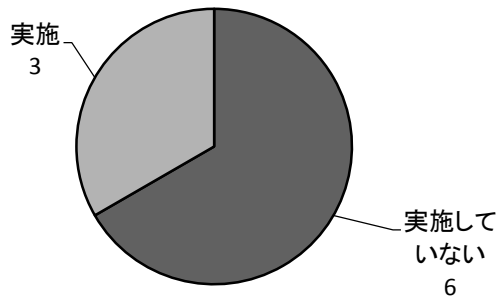
地域課題へ対応のためには、

- ・ 自治会との連携
- ・ まちづくり協議会等との関係
- ・ 福祉関係者との関係
- ・ NPO関係者との関係

## 9 公民館活動の自己評価

### ① 実施の有無、成果・改善点等

公民館活動の自己評価を「実施していない」と回答しているのが6館であり、「実施している」と回答している3館の2倍となっている。さらに、「実施している」場合の回答を見ても、各事業における目標値や指標を設定して評価する方法ではなく、公運審において口頭もしくは簡易な様式での事業実績報告から協議するという内容であった。



#### (実施している)

- ・ 公運審の協議で反省や改善点を出している。(資料なし)
- ・ 実行委員会において反省会を行っており、それを生かして次年度の行事を行っている。(資料なし)
- ・ 年間事業報告書(1枚もの：対象、事業名、反省と評価、次年度への志向)を作成し、公運審内で協議している。

#### (実施していない)

- ・ 行っていない。できていない。(2)
- ・ はっきり目に見えるものはない。
- ・ 公運審で協議する程度。まとめたものは、ない。
- ・ 公運審で意見を聴取しているだけ。まとめたものはない。市教委への提出もしていない。
- ・ やっていない。ただし、公民館で1つ事務事業評価を行ったり、事業の担当者が目標に対する達成度などを事後評価したりしている。

## 10 特色ある取組み事例

### ① 成果や課題等

各館において実施されている事業は、概ね「次世代育成」「公民館の利用拡大促進」「地域の各団体等との連携促進」の視点で展開されている。

|     |  |
|-----|--|
| 都市部 | <p>【事業名】まるい地球のいろんなところ～祭りだ！ワッショイ！〇〇の夏～</p> <p>【概要】愛媛大学グローバルスタディコースと公民館が連携した国際交流活動、ワークショップ。アイスブレイキング、世界のお祭り体験</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者の公民館での活動の場ができた。</li> <li>・小学校・大学・公民館との連携推進を図ることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の参加が年度ごとに替わるので、継続的に行えるような支援が必要。</li> </ul>   |
|     | <p>【事業名】連合自治会の立ち上げ</p> <p>【概要】公民館が主体となり、地区の全自治会長が集まった連合自治会を5年前に立ち上げた。公民館事業に協力してもらっている。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連合自治会主体で毎年防災イベントを行っている。(避難訓練、運動会での防災競技など)</li> <li>・公民館行事に自治会が積極的に参加してくれるようになった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自治会間で温度差がある。</li> <li>・連合自治会としては防災に関連した行事が主体になっているので、今後は地域の活性化にも寄与できる活動を目指していきたい。</li> </ul> |
|     | <p>【事業名】アクアロード</p> <p>【概要】子ども会、老人会、商店街が協力し、年間を通して川沿いに絵札を貼ったり、花を植えたりしている。</p> <p>【成果】子ども会、老人会、商店街など、横のつながりが強くなってきた。活動も軌道に乗りつつある。</p> <p>【課題】活動に対する住民の意識がまだまだ低い。活動の広報に努め、住民みんなのアクアロードとしたい。補助金も活用したい。</p>   |
| 住宅部 | <p>【事業名】〇〇町子ども教室(文部科学省補助事業ではない)</p> <p>【概要】地域の人材を活かした定期的な子どものための体験活動</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ぐるみの青少年健全育成で、地域の教育力が向上した。</li> <li>・公民館による家庭教育の機会ともなっている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターや指導員の人材確保が必要。</li> </ul>   |

|     |   |
|-----|---|
| 住宅部 | <p>【事業名】町民綱引き大会</p> <p>【概要】毎年5月に実施。自治会対抗の綱引き大会。今年で30回を数える伝統ある行事となりつつある。1チーム20名で編成(小学生:男子4名、女子4名、大人:男は最大6名で合計12名)のため、愛護班と自治会が協力して地域を挙げての行事となっている地域もある。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模な自治会は2チーム出場してくれ、ここ数年参加チームが増えている。本年度は15自治会17チーム、52人が参加。</li> <li>・各自治会、愛護班等では、年中行事として計画してくれており、綱引き機運が盛り上がってきている。</li> <li>・市発足10周年記念綱引き大会地区対抗の部で当地区が優勝した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小自治会では、子どもの数が少なく出場しようにもチーム編成ができなくなっているところも増えつつある。</li> </ul> |
|     | <p>【事業名】つばめ村</p> <p>【概要】小学校の希望者4年生以上(25名~30名)が6日間の通学合宿を行う。</p> <p>【成果】保護者からは大変好評である。子どもの自主性、コミュニケーション力など、短期間の合同生活では身につかない力を身につけることができる。</p> <p>【課題】施設が老朽化しており、いつまで使用可能か不安である。若い世代の協力がほしい。他の公民館では、若者が集まって子どもの活動を支援しているところがあり、その体制を目指している。</p>  |
| 小集落 | <p>【事業名】市内大運動会</p> <p>【概要】市内全分館の住民が参加する運動会</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分館内また分館間の交流促進が図られる。</li> <li>・市内の全世代が参加する市民の親睦の場として定着。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マンネリ化の傾向もあるので、毎年工夫や改善を検討する必要がある。</li> </ul>  |
|     | <p>【事業①】水源地ダムツアー</p> <p>【概要】小中学生を対象とし、水源地対策基金を活用して実施。H25は吉野川水系の早明浦ダムを見学後、カヌー体験を実施。</p> <p>【成果】川遊びができる場所が少ない中、ツアーではダムの仕組みなどについて親子で学ぶことができたり、その水源地でカヌーや船を使って親子で水に親しむことができる。</p> <p>【課題】子ども的人数も減少し、年々参加者が減っている。</p>  |
|     | <p>【事業②】探鳥会</p> <p>【概要】小学校3・4年生を対象に実施。地域の自然を生かした取組で、講師は地域の愛鳥家の方に依頼している。</p> <p>【成果】事業後、小鳥に興味をもち、鳥の鳴きまねをしたり、鳥に興味をもち川辺の鳥と接したりと自然に大いに触れることができる。</p> <p>【課題】学校と連携して実施しているので、鳥の観察しやすい早朝に実施することが難しい。</p>  |
|     | <p>【事業名】「外国文化ふれ隊」</p> <p>【概要】町在住の外国人(仕事で来ている人)と地域住民との交流会で、料理教室やスポーツ大会を年3回~4回実施している。</p> <p>【成果】子どもたちと、外国の人たちの触れ合う機会が増え、楽しく活動できている。</p> <p>【課題】外国の方は仕事で来ているため、日程調整が難しい。また、住民の方たちとの日常的な交流には広がっていない。</p>   |

② あまりお金をかけずに(30万円未満を想定)できる新たな企画アイデアはありますか。

やってみたい事業としては、青少年の体験活動(2)、全住民を対象とした健康に関するイベント(1)、地域人材を活用した座談会(1)、団体補助(1)との回答であった。なお、「現時点で市から委託を受けて行う事業で年間の活動が埋まっている。それ以上は想定していない」、「多忙な主事にこれ以上の負担をかけたくない」など、変化を望まない声が半数近い4件あった。

|     |   |
|-----|---|
| 都市部 | <p>ない。(現時点で市から委託を受けて行う事業で年間の活動が埋まっている。それ以上は想定していない。)</p>  |
|     | <p>ない。(公運審に諮って、みんなで考えたい。お金が必ずもらえるとわかっているならば、企画を考え実施するように運ぶが、プランを立てたけどダメかもしれないと考えると多忙な主事にこれ以上の負担をかけたくない、乗り気はしない。)</p> <p>地域への愛着を育む青少年教育の活動を考えてみたい。例えば、海から川をさかのぼり、源流を見つけ出す「源流体験活動」など。安全管理に問題があり、地元山岳会のような組織への協力が必要であろう。</p> |
| 住宅部 | <p>ない。(現状を継続していく。)</p>  |
|     | <p>歩け歩け大会…5kmコース、10kmコース。</p> <p>若者や青少年対象の体験活動が思い浮かぶ。1~2回限りの資金提供では、継続して行事やイベントを実施していくことができず、効果が見込めない。実際に実施するのであれば、資金提供がなくなった後でも継続してやっていけるように、計画段階からの指導・助言が必要であると思う。</p>   |
| 小集落 | <p>ない。(力を入れるものと現状維持でいいものを振り分けして考えていきたい。)</p>  |
|     | <p>当該地域出身の人材を活用し、座談会を実施したい。</p> <p>団体補助に使いたい。</p>   |

## 11 国委託事業(公民館GP)の活用

### ① 実施の有無、成果・改善点等

9館のうち7館の館長が国の委託事業を「知らない」と回答している。「知っている」と回答した2館長についても、「書類作成や報告が大変で活用できない」、「活用できない(検討中)」との回答であった。館長が新しい取組みを考えるチャンスを作るためには、それぞれの館長等で「きちんと情報が伝わる仕組み」を考えることが必要ではないか。

|       |         |    |  |
|-------|---------|----|--|
| 知っている | 活用した    | 0館 | -  |
|       | 活用しなかった | 2館 | ・書類作成等が大変だから。<br>・検討中  |
| 知らない  |         | 7館 | ・公民館まで情報がきていない。<br>・事業過多で必要としない。<br>・地区防災組織の設立に活用できるなら検討はするが。<br>・国の事業は事務が複雑なイメージが強い。<br>・現状では余裕がない。 |

## 12 公民館と県公民館連合会との関係

### ① 連携、協働の現状

4館から「研修会や館報コンクールに参加している」との回答があり、その他5館は「なし」「実感がない」「県公連の立ち位置がわからない」との回答であった。

- ・各種研修会や公民館研究大会は、知識を広げるよい機会になっている。
- ・研修会や各種大会での関わりがある程度。市公連会長が県公連と繋がっており、情報をおろしてくれる。
- ・あまり連携できていない実感はない。市公連の代表ともなれば、状況は違うのかもしれない。
- ・間に市公連が入るという構図になっているので、連携、協働していることはない。
- ・市教委が中心となって行っている。
- ・館長研修会があったが、その他かかわりがない。
- ・研修会への参加。館報コンクール。
- ・特になし。

### ② 成果と課題

成果については、9館のうち7館が成果なし又は無回答であり、成果があったとの回答理由は、研修会、各種大会などでの情報提供を評価するものであった。

課題としては、公民館と県公民館連合会との直接のつながりがなく、活動のための情報発信(情報収集と伝達)であった。

#### (成果)

- ・研修会や各種大会で得られる情報が収穫になっており、事業実施の際の参考となる。
- ・館報コンクールの優秀作品は参考になる。
- ・情報提供していただくことが参考になる。

#### (課題)

- ・活動に役立つ情報発信が少ない。
- ・情報があれば利用したいが伝わってこない。情報がきちんと伝わる仕組みづくりが課題。
- ・10月の県大会の立ち位置(スタンス)が分からない。

#### (その他)

- ・特になし(5館)

### ③ 県公連に対する期待と要望

2館から「若返って欲しい」「県大会やセミナーがマンネリ化しており変化を求める」「館報の指導を各地で実施してほしい」との要望があった一方で、その他の5館は「特になし」であった。連携・協働が十分できていると思われていない中で、期待や要望が特になくことは、公民館活性化の視点では危惧すべき結果と思われる。

- ・各公民館が活動するために役立つ情報発信をお願いしたい。
- ・県大会やステップアップセミナーがマンネリ化。変化を求める。
- ・館報の指導を各地域で行って欲しい。国語の先生等の指導が必要。
- ・研修には積極的に参加したいと考えているので、参加者の実になる研修をお願いしたい。
- ・若返って欲しい。
- ・館長研修会で横のつながりができ、そこから要望等が出てくるかもしれない。
- ・自分自身をもっと公民館や社会教育について勉強をして、課題を知り、要望を出せるようになりたい。
- ・特になし(5館)

### 13 公民館活動に関して、行政(国・県・市町)への希望・要望

#### ① 市町に対する希望や要望

正規職員の確保・人的支援(3)、予算増額や維持(2)、少子・高齢化に対する施策(1)、施設の充実(1)が希望や要望として回答されている。一方で、希望や要望ともになしとの回答も4館長からある。

- ・ 財政的なもの。これ以上の予算の減額は困る。
- ・ 職員の確保。嘱託方式にはしないほしい。
- ・ 独立した建物が欲しい。
- ・ 館長の勤務が短く、中・長期的な公民館の在り方を考えることが難しい。
- ・ 公民館活動を活性化するためには、人に投資しないといけないと考えている。
- ・ 人的支援が欲しい。
- ・ 交通の不便さ、バリアフリーなど施設的に難しいところがある。
- ・ 地域のつながりを破壊する政策がまかり通り、独居老人が増え、中心街がさびれていくような大きなうねりに対して、社会教育が地域づくりにどこまで貢献できるかを考えると虚しく感じることもある。里山を中心とした地域のつながりこそが、日本の復活だと考えている。

#### ② 県(教委、知事部局舎)に対する希望や要望

市町に対する希望や要望と同様の回答が2館のみであり、5館については「なし」、1館については「あまり期待はしていない。事業は2・3年続けたら後は市で行うようになる。現状で精一杯。」という回答であった。

公民館は、市町村立の社会教育施設であり、希望や要望は市町村にという意識があるのではと推察できる。

- ・ 事業は2・3年続けたら後は市で行うようになるので、あまり期待はしていない。現状で精一杯。
- ・ 地域のつながりを破壊する政策がまかり通り、独居老人が増え、中心街がさびれていくような大きなうねりに対して、社会教育が地域づくりにどこまで貢献できるかを考えると虚しく感じることもある。里山を中心とした地域のつながりこそが、日本の復活だと考えている。
- ・ 交通の不便さ、バリアフリーなど施設的に難しいところがある。

#### ③ 国に対する期待と要望

市町・県に対する期待と要望に加えて、「特にはないが、財政的なものの根本は国だと考えている」、「公民館活動がどういう方向に進めばいいのか示して欲しい」との回答があった。

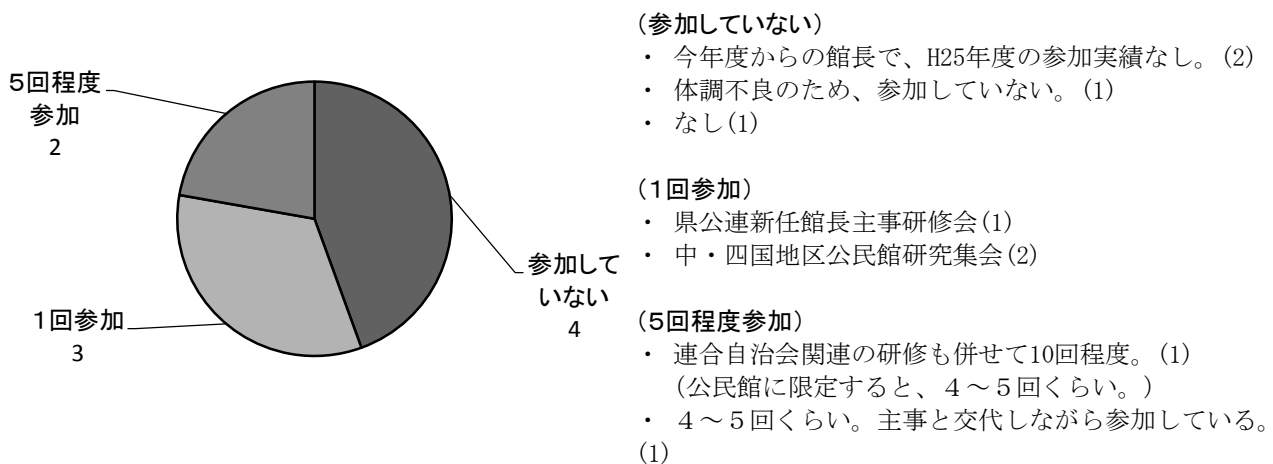
一方、「11 国委託事業の活用」の項目では、7館の館長が事業の存在自体を認識していない実態が明らかとなっていたり、近年、国から示された教育振興基本計画や各種答申、報告が多数あることなどから、公民館に関する情報を整理し、分かりやすく情報提供することが課題であることが窺える。

- ・ 公民館活動がどういう方向に進めばいいのか示して欲しい。
- ・ 特にはないが、財政的なものの根本は国だと考えている。
- ・ 地域のつながりを破壊する政策がまかり通り、独居老人が増え、中心街がさびれていくような大きなうねりに対して、社会教育が地域づくりにどこまで貢献できるかを考えると虚しく感じることもある。里山を中心とした地域のつながりこそが、日本の復活だと考えている。

### 14 公民館に関する研修機会(所属市町外)

#### ① H25年度、所属市町外に出向いての研修への参加頻度

平成25年度に、所属市町外に出向いて研修へ参加した回数は、0回が4人、1回が3人、5回程度が2人となっている。0回及び1回の館長が7人と大半を占めており、情報交流や成果・課題を共有する研修機会が十分でないことが窺える。



#### ※ 参考

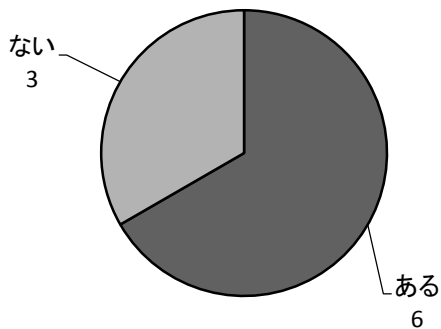
H25県公民館研究大会は、荒天のため中止となった。

## 15 行政(国・県・市町)の予算以外の事業費

### ① 公民館費(地区内各戸負担)、自主事業収入など、ある程度自由な財源

ある程度自由な財源については、6館があると回答しており、3館がないと回答している。

財源の内訳については、地区内各戸からの負担金(3館)が一番多く、次いで団体・企業等から寄付金・負担金(2館)、事業への補助金・協議会からの助成金(1)となっており、その平均額は583千円となっている。



#### (ある)

- ・ 地元負担金会計がある。(170円×3,397世帯=577,490円)ただし公民館一般会計へ充てているため自由とは言えないかもしれない。
- ・ 企業等広告賛助金、体育振興協議会、社会福祉協議会、スポーツ少年団からの寄付金(900,000円)。周年行事の内容等で増やすことも可能だが、大幅には無理だろう。
- ・ 1世帯あたり、年間1,000円徴収(1,000円×440世帯=440,000円)し、公民館の納涼大会やスポーツ大会で活動費として利用している。
- ・ まちづくり推進事業補助金(300,000円)、地区社会福祉協議会からの助成金(約150,000円)がある。新しい事業に充てるお金はなく見込みもない。住民の負担金もない。
- ・ 使用団体より会費を徴収(2,000円×30団体=60,000円)しており、スリッパやエアコンなどを購入している。
- ・ 地域住民より公民館費を徴収している。(1,071,000円957戸、負担額800~2,500円)

#### (ない)

- ・ ない。(3)